



福島県の「風化と風評被害」問題の解決に向けた活動



DATA

- 主な連携先・メンバー
福島県企画調整課
- 活動地域
福島県(福島市・南相馬市・浪江町・富岡町・大熊町)
- 活動期間
2018年度～2019年度
- 活動資金
関西大学地域連携活動に対する補助事業

活動の目的

福島県の新たな地域振興策を提言すると同時に、東日本大震災が有する問題点を広く発信すること

連携にいたる経緯

2011年3月の東日本大震災以降、福島県浪江町は帰還困難区域に指定され、行政拠点はもちろん、小学校もすべて避難対象となった。近年、一部の地域で避難解除が宣言されたことで、住民の帰還が可能となったものの、元住人の帰還はほとんど進んでいない。そのような状況下、2018年4月から浪江町になみえ創成小学校が新設されたが、在校生数は10名のみ。本事業では福島県と連携し、この小学校での調査活動や交流活動を通じて、地域のコミュニティ形成への貢献、そして、福島県主催の『チャレンジふくしまフォーラム』で「ふくしまの今」を伝えることで、震災復興への課題が風化しないことを目的に活動することになった。

活動内容

まずは、地域振興の問題点や対応について、小学校や商業施設に取材を行い、避難解除後の住民の帰還状況を調査。あわせて、帰還区域や住民への調査・取材を通じて福島第一原発被害からの復活状況を調査した。震災から9年がたった福島県は、面的除染を進め、多くの市町村で帰還にむけた取組みを行っているが、居住環境や就業環境の整備は思うように進まず、まちづくりの道は未だ道半ばである。それでも現地NPOや企業は新たな事業を創生すべく、確かな一步を歩みだしており、政策創造学部橋口ゼミの学生たちはその福島の「光と影」を発信した。

また、以上の調査を取りまとめ、2019年11月に開催された「チャレンジふくしまフォーラムin関西」にて震災復興への提言を行った。

活動の成果

- 1 原発被害からの復興の難しさや、住民帰還の問題について提言することができた
- 2 福島の豊かな魅力や、復興への強い意志をもって生きる方々の姿を発信することができた

今後の課題・目標

継続的な福島県調査活動の実施



教員紹介



■ 政策創造学部 教授

橋口勝利

Katsutoshi Hashiguchi

※2020年3月末付退職

専門演習では「関西地域の活性化に向けた具体的提案と実践」をテーマに、4つの班に分かれて現場取材や企画提案・運営を学生主体で実施している。